

3 英語多読

●英語多読とは

英語学習としての**多読 (extensive reading)**は、学習者が易しい英語の本を大量に読むことで英語力向上を図るものだ (Day & Bamford, 1998)。これは、Krashen (1982) の**インプット仮説 (input hypothesis)**に基づく言語習得方法である。この仮説は、学習者が理解可能なインプット (comprehensible input) に多く触れることで言語習得を進められるとするもので、同様に多読においても、たくさんの英文に触れることで英語力を伸ばせると考える。

多読は精読と正反対の特徴を持つ。**精読 (intensive reading)**は、文法規則や単語の意味を確認しながら、正確に英文を読んでいく方法で、長く日本の英語授業で用いられてきた訳読法もその一例である。一方で多読は内容に焦点を当てる。この場合、文法や単語の確認はせず、そして日本語に訳すことなく英語を英語のまま理解して読む方法をとる。このため Day and Bamford (1998) は、多読において、学習者の現在の言語習得レベル「i」よりも少し低いレベル、つまり「i-1」レベルの読み物を読むことを推奨する。これにより、英語であっても内容を楽しみながら読むことが可能になる。

Day and Bamford (2002, pp.137-140) は多読の10原則を以下のように示している。まず多読で扱う読み物について3点述べる。「1. 簡単な読み物を読む。2. 幅広いトピックの様々な読み物を用意する。3. 学習者が読みたいものを選ぶ。」続いて、選んだ本の読み方について5つの原則がある。「4. 学習者はできるだけたくさん読む。5. 読書の目的は通常、楽しむため、情報を得るため、概略を把握するためである。6. 読むこと自体が目的である。7. 速いスピードで読む。8. 一人で静かに読む。」最後に教員の役割について2点述べられている。「9. 教員は正しく方向付け、指導する。10. 教員は読者としての手本となる。」多読における教員の役割は、学習者が多読をおこなう手助けをすることだ。例えば、学習者に合った読み物を選ぶのを助けたり、読書状況をチェックしたりするなどがある。

●多読の効果

繁村・酒井 (2018) は、これまで英単語の暗記、文法学習、和訳などで英語の勉強が嫌だった学習者が、多読により苦手意識が無くなり英語力が向上した例を挙げている。英語の本を大量に読むことで、英語を英語のまま、英語の語順で理解できるようになる。すなわち「英語脳」が育つのである。実際に多くの研究が

多読の効果を報告している。多読により読解力や読むスピードが上がる (Beglar, Hunt, & Kite, 2012; Fujita & Noro, 2010)。読むことで自然に英単語を習得する**偶発的学習 (incidental learning)**ができ、語彙を増やせる (Day, Omura, & Hiramatsu, 1991; Hayashi, 1999)。ライティング力や文法知識の発展に役立つ (Aka, 2020; Mason & Krashen, 1997)。さらに、TOEFL, TOEICなどの英語テストにも効果がある (Hayashi, 1999; Mason & Krashen, 2017)。また高瀬 (2010) は、言語能力だけでなく、多読は学習者のやる気や自信を高めたり、読書の習慣づけ、集中力持続、外国文化理解にも有効であると述べている。

● 英語授業での多読

学習者が多読をするうえで注意すべき多読三原則 (古川・神田, 2013) がある。原則1「辞書を引かない」。単語の意味は前後の内容から推測すべきである。原則2「わからないところは飛ばす」。70%～80%理解できれば十分に本を楽しむことができるため、わかるところをつなげて読めばよい。原則3「つまらなくなったらやめる」。多読は楽しんで読むことが目的であるため、嫌になったら別の本を読むべきだ。

高瀬 (2010) は授業で多読指導を実践するポイントを3つ挙げている。1. Sustained Silent Reading (授業内読書を取り入れること)。多読は宿題や課外活動としておこなうこともできるが、授業内で実施することで確実に読書時間を確保でき、教員が学習者の読書状況を観察できるという利点がある。2. Start with Simple Stories (易しい話から始めること)。多読でよく使用されるのは、英語を母語とする子供用絵本の Leveled Reader や英語学習者用の段階別の本 Graded Reader である。3. Short Subsequent Tasks (最小の読書後課題)。読書後には本のサマリーや感想を提出させるなどの課題を設けると良い。M-Reader というウェブサイトを使って読んだ本の内容理解テストを受けさせる方法もある。

最近では学校全体で取り組んだり、授業の一部として取り入れるなど、多読を英語の授業で実施する例は多くなっている。英語力向上に効果のある多読を、有効に英語学習に利用してもらいたい。

(岩本 典子)